

UNIRITA

vol.49

Magazine ユニリタマガジン

特集

データ マネジメント

特集

ユニリタの3つの強み
データマネジメント編

ユニリタの新製品&サービス紹介

- Waha! Transformer 最新版 Ver5.3をリリース
- データ変換・加工まるっとクラウドサービス

情報システム部

ユニリタ情報システム部のコロナ奮闘記

システム管理者の会

ニューノーマルを支えるシステム管理者とは
システム管理者感謝の日イベント 緊急開催決定

ユニリタ
イメージタレント
朝倉あき

ユニリタの3つの強み

データマネジメント編



「2025年の崖」というセンセーショナルなワードによって、経済産業省の「DXレポート」（2018年）は「DX推進の阻害要因であるレガシーシステムの見直しが急務である」との警鐘を鳴らしました。国内企業の基幹システムが老朽化し、人手不足によりそのシステムの維持すら困難な状況がデジタル変革を阻害していることは間違いありません。

では、新しい技術でレガシーシステムの刷新をすればDXは実現するのでしょうか。「具体的なビジョンを伴わないDXの掛け声」のもとで莫大なコストをかけ、単にシステムが改修されただけ、に終わらないようにしなければなりません。

ユニリタグループが、DXの実現に取り組むお客様が抱えるさまざまな課題を解決するために提供する、「データ」「プロセス」「サービス」のいう3つのマネジメント領域から、今号では「データマネジメント」について説明します。

DXの取り組みとデータ活用の成熟度（5つのステージ）

ユニリタマガジン48号でもお伝えしましたとおり、「企業経営の視点からSoR/Sol/SoEの3つのシステムにおいて戦略を立案し、推進していくこと」がDXの本質です。

多くの企業が生き残りをかけてデジタル技術によるビジネス変革を目指しているにも関わらず、大きな成果を出した事例はあまり聞こえてきません。“変革、改革どころか業務効率化の効果すら出ていない”というアンケート調査の結果もあるほどです。

データ活用、BIの領域に限ったとしても、実態はデータ分析ツールを入れることが目的化し、いわゆる“POC疲れ”と称される状況のプロジェクトがほとんどではないでしょうか。

本来のデータ活用は、図1.データ活用の成熟度にある5つのステージに示されるように社内外の事業環境変化の把握や改善のみならず、経営の迅速な意思決定や新たな事業や、サービスの革新といった価値創造に貢献するものであるべきです。

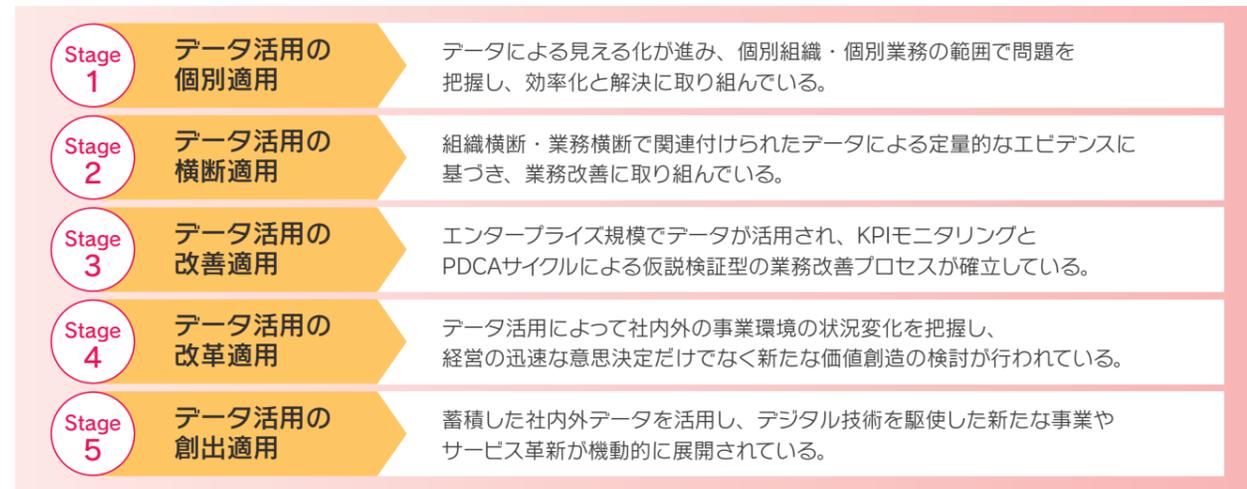


図1.データ活用の成熟度

データ活用を阻む壁

データ活用の領域は大きなリターンが期待できるため、構造化されたデータだけでなく非構造化データまで分析対象の範囲が広がり、そのための技術革新も進みました。

しかし、組織横断でのデータ活用に取り組む場合、組織の壁が行く手を阻んでいます。例えば、各現業部門の複雑な業務仕様（どのデータを、どういった理由でつくり、どのように使っているかなど）を、データ分析サイド、データサイエンティストが共有することだけでも簡単ではありません。

なんとか伝えることができたとしても、データサイエンティストは目的ごとにバラバラに管理されているデータを収集し、分析可能な状態にするための単純作業に多くの時間を費やしています。

長年にわたって個別最適のシステム開発やパッケージ導入によって屋上屋を重ね、サイロ化したシステム間のデータの不整合や品質の劣化がデータ活用の大きな障壁となっているのです。

マイクロサービス化などの傾向を踏まえると今後さらにサイロ化が進み、データのメタレベルでの統合やデータ品質の維持などがますます困難になることが予想されます。

データの資産価値を知る

データは情報分析のエビデンスであるはずですが、「わが社では信頼に足るデータが整備されておらず、ストレスなくリアルタイムに利用できない。だからデータ活用に投資をしても効果的な示唆を得られず、十分な効果があがらない。」というお客様からのご相談が後を絶ちません。

多くの場合、まず第一歩としてお客様企業内の組織やステークホルダーが“データに対する責任意識”を改め、以下について共通の認識をもたなければなりません。

1. データは資産であり、企業における適切な意思決定のための重要な経営資源であること
2. あらゆる業務プロセスは何らかの価値を生んでおり、そこではデータが何らかの価値貢献をしていること

そして、自社内にどんなデータがあり、どれだけの価値があるのかを評価し、改善の足掛かりとすることが有効です。

「データ資産価値算定サービス」として2020年3月にリリースした（株）データ総研のコンサルティングサービスでは、本来のあるべき姿と比較し、「そのデータが資産としてどれだけ信頼できるのか？」を明らかにします。そして、分析に資する品質をもったデータを提供するための活動、体制・組織づくりを支援します。

データマネジメントとは

データが組織・事業・社外を含めて横断的に正しく、タイムリーに使われるよう、その管理方法と品質レベルを定義しなければなりません。

そのルールと体制の下で、データのライフサイクルにおける統制と人材教育を継続的に推進していく諸活動と仕組みが「データマネジメント」です。図2.はデータマネジメントの全体像を示しています。

データ構造を設計し、定義する「データデザイン」とデータ解析などの「データ活用支援」は「データライフサイクル」ごとの活動になりますが、「データインテグレーション」は複数業務にまたがるデータを、整合性をもって統合、標準化する横断的な活動を担います。

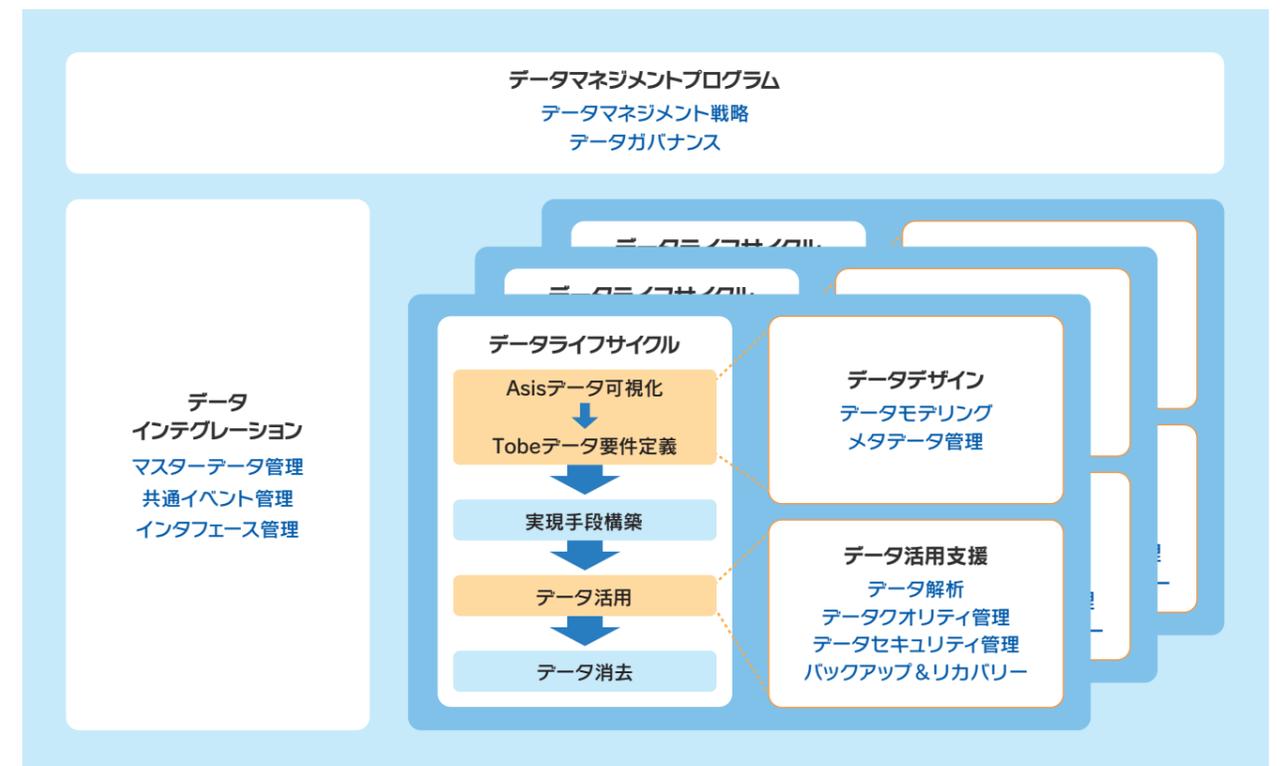


図2.データマネジメントの全体像『データマネジメント 業務改善の正攻法：戦略から実践』：編著（株）データ総研

この活動では相応の体制や設計思想が求められます。そして、データマネジメントについての全体最適視点の戦略を最優先に立案し、原理原則を策定した上で、個々のプロジェクトに対し、データガバナンス

を含めた有効な解決策を提示していくシナリオが重要になります。図3.はその概要です。

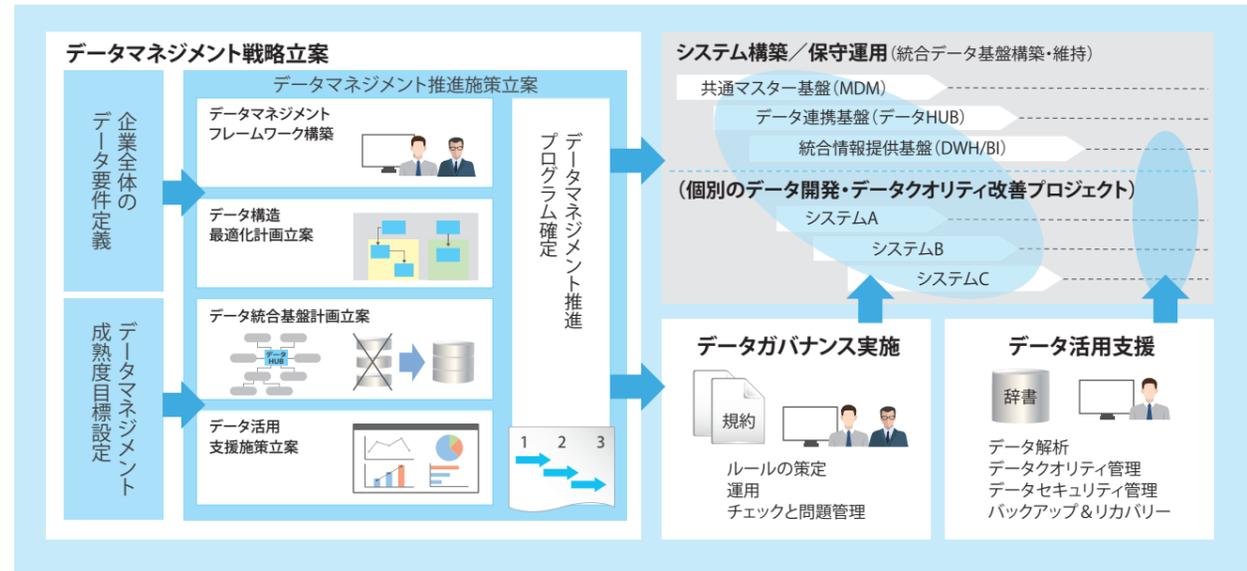


図3. データマネジメント戦略とデータマネジメントの進め方『データマネジメント 業務改善の正攻法：戦略から実践』：編著 (株)データ総研

(株)データ総研は、データマネジメント戦略の策定だけでなく、以下の具体的な施策を、数多くのコンサルティング経験と独自の設計技法と方法論によって支援しています。

- ① 企業に必要なデータ資産が正しく管理されているかの診断・評価
- ② DX推進に関わる方々へのデータマネジメントの基礎研修
- ③ エンタープライズ規模でのデータの地図(データモデル)の設計
- ④ マスター統合設計
- ⑤ データマネジメントを推進する組織や役割・プロセスの設計
- ⑥ データの意味定義などメタ構造設計と管理
- ⑦ データの品質を改善し、維持・継続していくための施策づくり

これからのデータ統合基盤と必要となる人材

従来のビジネスモデルの垣根を越えたコミュニケーションとパフォーマンスの実現に向け、必要な情報を必要なタイミングで、誰もが利用できるプラットフォーム(基盤)が目立っています。

最近では非構造化データの収集も容易になり、データの仮想統合をうたう製品も数多く出てきましたが、新たな事業戦略を生み出すための情報分析は、さまざまな業務で発生したデータを、統一されたセマンティクス(データの意味)をもつトランザクションとして統合基盤上で集約することが大前提です。

整合を取った上で共有すべきデータの意味定義、適切な粒度、参照関係などを踏まえて、広域に散在するデータを自動的にまとめてくれる魔法の杖などありません。

まとめ

本稿では、継続的な経営改革を促すDX推進においてデータマネジメントが求められる背景とその重要性について説明しました。

(株)データ総研は、ユニリタグループの一員としてDX推進の重要な成

データのメタレベルでの統合とデータ品質の維持については、地道な取り組みを継続する以外に近道はないのですが、日本では欧米と比較して、データマネジメントの推進役となるデータアーキテクトや、データ定義と品質の維持向上・統制を担うデータスチュワードの役割や位置づけへの認識が非常に遅れています。

(株)データ総研は、「データアーキテクト養成コース」をはじめとした各種の教育研修コースによってデータマネジメント推進のための人材育成を支援しています。最終的にはお客様企業内でデータマネジメントのサイクルを自走していただける体制を目指します。

功要因であるデータマネジメントのノウハウを磨き、1,300件以上のコンサルティング経験をもとに、データ活用とデジタルビジネス推進やサービス変革を強力に支援しています。お気軽にお問い合わせください。

ユニリタグループによるソリューション提供

データをいつでも共有できる環境の構築やデータマネジメント施策はデータ活用に必要な不可欠ですが、それだけでは革新的で差別化されたサービスの創造は実現できません。

インプットデータを付加価値の高いアウトプットに効率よく変換するためにプロセスの自動化、標準化などの施策が重要になります。サービスの質を決めるのはプロセスとデータであり、データマネジメントだけでなく、プロセス管理がDXの成功の鍵を握っているのです。

ユニリタは、対象となる組織の業務プロセスを可視化し、気づきや問題点を共有、継続的な改善のサイクルを構築するサブスクリプション型BPMクラウドサービス「Ranabase(ラーナベース)」を提供しています。

ユニリタグループには、サービスマネジメントのプロフェッショナル集団である(株)BSPソリューションズがあります。同社はDXを成功に導く「Digital Service Management System」などのフレームワークやLOB(Line of Business)における事業のサービス化を支援するコンサルティングファームです。

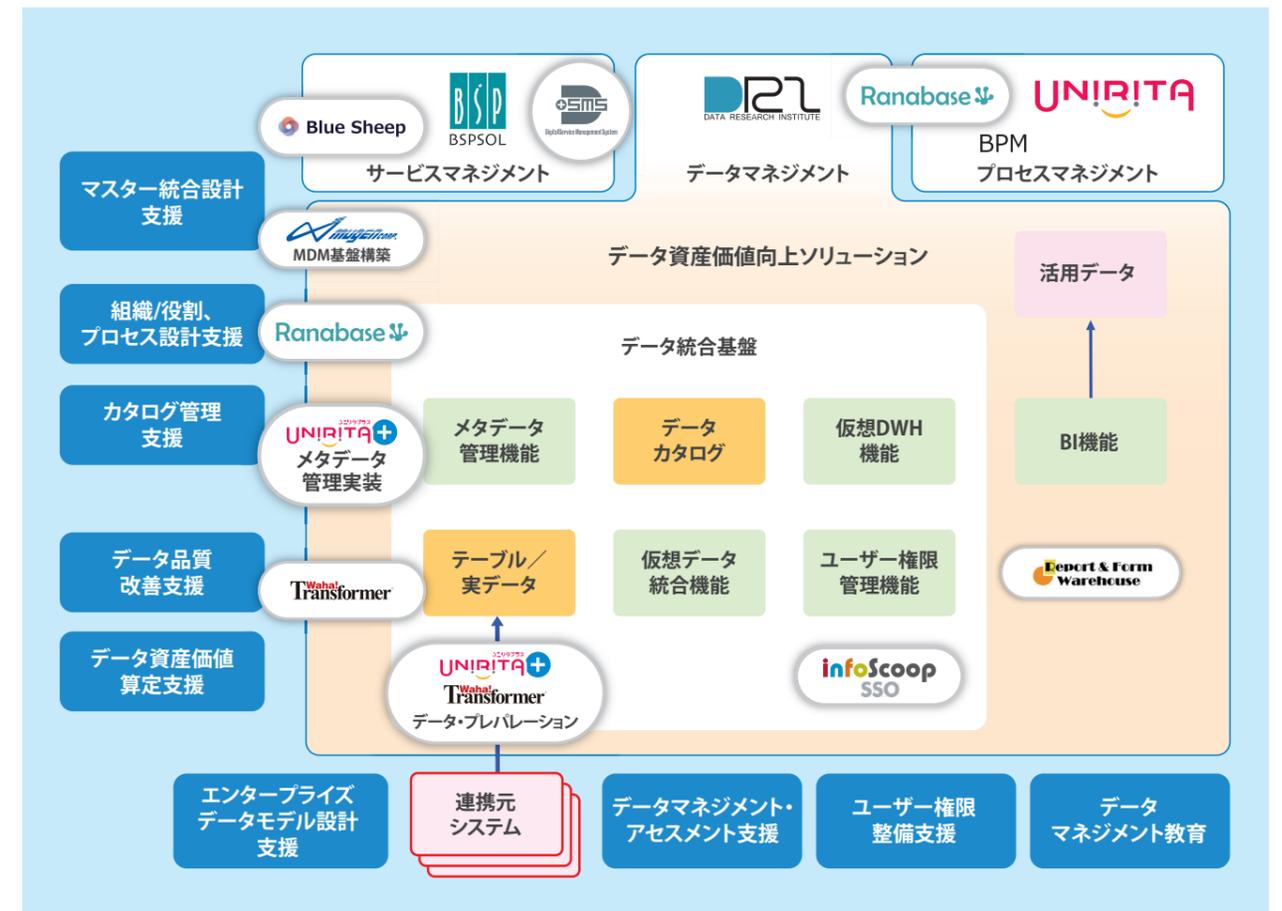
DXプロジェクトにおける全体構想の策定フェーズからデータドリブン経営やCX改善を実現するシステムアーキテクチャの検討をサポートします。また、(株)データ総研のマスターデータマネジメント(MDM)

やデータガバナンスのコンサルティングと同じユニリタグループのシステムインテグレーターである(株)無限が連携し、統合データ基盤レイヤーの実装までをカバーし、企業のデジタルサービスカンパニーへの変革を強力に支援します。

(株)ユニリタプラスと(株)データ総研は、DXへの取り組みが急速に進むにつれて増大する「使えるデータ」の需要に対し、データ活用の前提となるさまざまなデータの加工や変換をご支援する「(サクッと解析!)データ・プレパレーションサービス」をリリースします。併せて、「Wahal Transformer」によるデータ品質改善支援やメタデータ構造設計支援の後工程であるメタデータ管理の実装も提案します。

下図は、データ活用のための統合基盤を中心に、データマネジメント領域におけるユニリタ製品およびグループ各社が提供可能なソリューションの関係を示したものです。

ユニリタグループは、DXを実現する3つのマネジメント「データマネジメント」、「サービスマネジメント」、「プロセスマネジメント」の強みを活かし、コンサルティング、ソリューション、プロダクト、サービスの4つのアプローチでデジタル戦略に基づく新たな事業創造やサービス革新を目指す企業を支援します。



ユニリタの新製品 & サービス紹介

Waha!
Transformer

Waha! Transformer 最新版 Ver5.3をリリース

「お客様のデジタルトランスフォーメーション(以下:DX)を加速するエンタープライズETL」をコンセプトに開発したWaha! Transformer 最新版Ver5.3を2020年6月にリリースしました。

Waha! Transformerとは

「Waha! Transformer」は純国産エンタープライズETL (Extract Transform Load) ツールとして、1999年に発売を開始しました。さまざまな環境のデータ抽出・加工・連携をSQLやプログラミングの知識なしで高速に実現できることから多くの企業に導入いただいています。

図1.Waha! Transformer各バージョンの開発コンセプト

Waha!のバージョン	主なIT課題	開発テーマ
Ver3シリーズ	企業の海外展開に伴うデータ連携	国際化対応。中国市場展開
Ver4シリーズ	情報爆発時代に伴う高速処理	ビッグデータ対応。10億件への挑戦
Ver5シリーズ	クラウド環境下におけるDX対応	DXを加速するエンタープライズETL

時代が求めるIT課題に対応し、 進化し続けるETL

「Waha! Transformer」は、過去、各バージョンにおいて、企業が抱えているさまざまなIT課題を解決する開発計画を策定し、リリースしてきました。

Ver5シリーズでの開発コンセプトおよび最新バージョンVer 5.3 で追加された機能

最新のVer5シリーズでは、開発テーマを「DXを加速するエンタープライズETL」と位置付けました。クラウド環境下におけるDX実現のために、下記の観点で段階的に機能追加を実施。最新バージョンVer5.3は、

Ver5シリーズの集大成として、接続性強化および、DX 実現時発生するシステム移行や、メンテナンスの各課題を解決するために16の機能を追加をいたしました。そのうちの主な機能を紹介します。

図2.Waha! Transformer Ver5シリーズで提供する主な機能

※赤字が最新バージョンV5.3で追加された機能

必要要件	機能	説明
接続性強化	他サービスやアプリケーションとの連携	REST APIを公開している他サービスやアプリケーションとシームレスに連携し、データの取得や引き渡し、実行などを実現
	Marketo Engage 対応 (CData Driver)	クラウド型 MA ツール Marketo Engage とのシームレス連携を実現
	kintone 対応 (CData Driver)	クラウド型業務アプリ開発プラットフォーム kintone とのシームレス連携を実現
	Salesforce 対応 (CData Driver)	クラウド型 SFA ツール Salesforce とのシームレス連携を実現
	ブラウザや他システムから処理を実行・連携	Waha! の処理をマイクロサービス化し REST API を提供。ブラウザや他システムからマイクロサービスの実行・連携を実現
	AWS 稼働・制御	Waha! 実行を起点とした Amazon EC2 の仮想サーバの開始や停止、Amazon S3 とのファイル転送などの各制御を実現
内部統制対応	クラウド DBMS、OSSDBMS 対応	OSS DBMS (MySQL, PostgreSQL) や、Amazon RedShift などのクラウド DBMS のシームレス連携を実現
	ジョブ履歴管理、比較・差分機能	ジョブの更新履歴を自動で作成。新旧ジョブの変更点やジョブ間の差異把握を実現
	ファイル転送暗号化	SFTP(SSH FTP)、FTPS(FTP over SSL/TLS) 対応。セキュアなファイル転送を実現
データ移行システム連携	データ暗号化・マスク処理	カラム単位でのデータ暗号化および復号化、データのマスク、ランダム置換により元データを秘匿化
	データ更新用 SQL 文実行	DB に対してテーブル作成・データ更新・削除などの実行やストアドプロシージャの実行を実現
その他	Web ブラウザ上での処理結果確認	リアルタイムなジョブの実行状況把握から、実行結果サマリーや詳細ログの閲覧を実現
	Spreadsheet Adapter for Excel の処理速度向上	Excel ファイルが保持するパラメータにかかわらず、読み取り / 書き込み時の設定で処理速度向上を実現

これらの機能は、昨今のリモートワーク環境下で抱えるデータの加工・収集に関する以下のような課題を解決します。

・利用者はWebから業務処理 (=Waha!ジョブ) を実行することで、Salesforceの販売データとクラウド上の請求・支払データを連携。売上→請求→支払までの情報がWeb閲覧可能に

・利用者はExcelの更新データをメールで送付するだけ。「Waha! Transformer」が自動的にデータを集積しオンプレ型システムの特定データベースへ投入を実現

・Waha!ジョブ構築者は、接続性強化で追加された各機能を採用。REST API対応のサービスやアプリケーションを社内システムと同期。より多くの業務におけるデータ連携を実現

・Waha!ジョブ構築者は、新旧のシステム間連携で発生するプログラム置き換えの手間を、資産の一部 (SQLなど) をそのまま利用することで、大幅な生産性向上を実現。またジョブの履歴が管理されるため、より大規模な開発も実現可能に

・Waha!ジョブ運用者はWebブラウザ上から、現在実行中のジョブ監視、および処理結果の確認。問題発生時は詳細ログの確認が可能に

「Waha! Transformer」は、これからも操作性や機能性の向上を図り、企業に必要な不可欠なデータ連携領域のコアプロダクトとして、機能拡張を継続していきます。

データ変換・加工まるっとクラウドサービス

今回、当社が新しく提供する「データ変換・加工まるっとクラウドサービス」は、データ変換・加工処理＋運用保守業務をアウトソーシングできるクラウドサービスです。お客様からいただいたデータの連携加工要件をもとに、当社がデータ変換・連携といった業務ロジックの構築から運用までを引き受けます。

今号では、「働き方改革」を中期経営計画(以下:中計)に掲げるA社様が、「データ変換・加工まるっとクラウドサービス」使って課題を解決された事例を紹介します。

「働き方改革」実現のために

A社様では、製品売り切り型のビジネスが売り上げの大半を占めていましたが、さらなる成長のため、製品をサービス化し、ストック型ビジネスへの進出を目指していました。このビジネスモデルの変革を成功させるため、以下の目標を掲げ「働き方改革」の実現を目指しました。

- ①人材確保
- ②生産性向上
- ③働き方の多様性確保
- ④イノベーションを起こせる環境づくり

中でも「生産性向上」にフォーカスをあて、社員が時間や場所にとらわれず働くことができる新たな環境を提供するという点を重視しました。そのため、A社様のIT部門では、「リモートワークのインフラ不足」「最新デバイスの有効活用ができない」「すぐに新しい外部サービスを活用できない」という3つの課題を解決することが求められました。

インフラ・デバイス整備だけでは解決しない大きな課題

「リモートワークのインフラ不足」、「最新デバイスの有効活用ができない」という2つの課題はインフラ面に関するものです。しかし、いくらネットワークをつないで、デバイスを準備しても既存システムと外部サービスのデータが連携しなければ活用できません。

IT部門としては、「自社システムと外部サービスとの連携」が最も重要と考えました。現在、ビジネスの世界でもクラウド環境で稼働するサービスへの移行が加速していますが、A社様が10年以上にわたり自

社スクラッチで開発してきた基盤では、それらの外部サービスとの連携が困難であり、都度データ連携のためのシステムを開発する必要がありました。

これでは、スピード感を持って業務改革を行うことができません。

既存システムと外部のクラウドサービスの迅速なシステム間連携を実現する基盤の構築が必要不可欠でした。

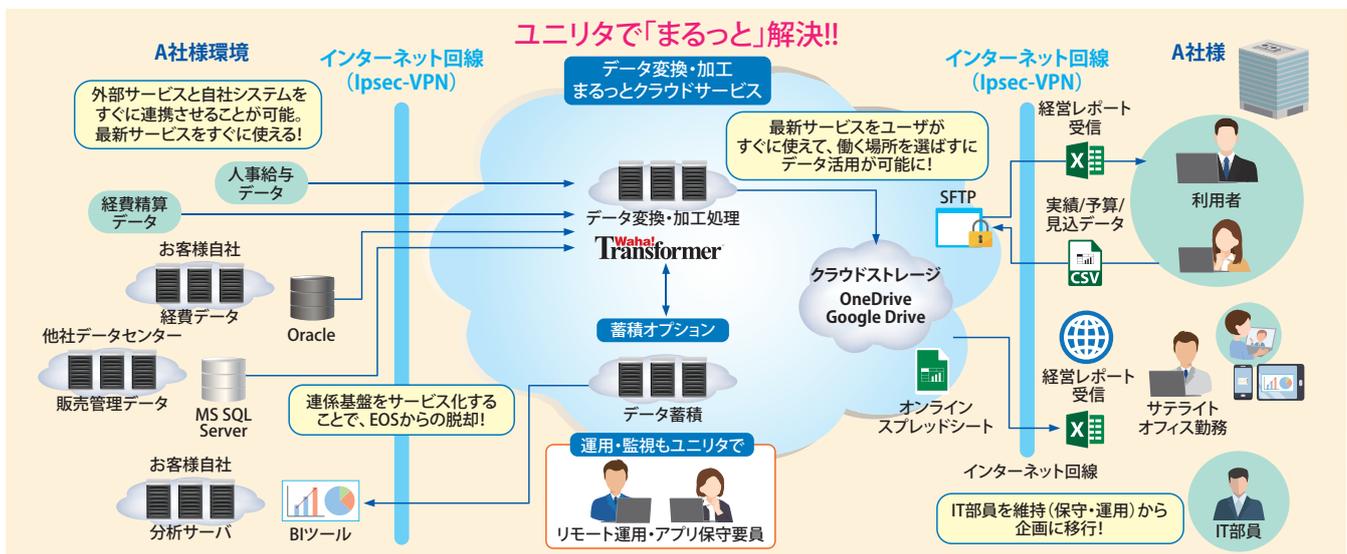
働き方改革を実現するための連携基盤とは

A社様では、新たなデータ連携基盤として、ユニリタの提供する「データ変換・加工まるっとクラウドサービス」を導入しました。

これにより、データ加工や新たなシステム連携などの要件が発生してもシステム開発や維持・運用をユニリタに「まるっと」依頼することで煩雑な業務から解放され、システム企画や最新のテクノロジーの研

究・開発といった創造的な業務へ移行することで「人材確保」や「イノベーションを起こせる環境づくり」という課題を解決しました。

また、迅速なシステム間連携を可能にする基盤を構築したことで、働き方改革を実現するための施策をトライアンドエラーで検証できるようになり、スピード感のある業務改革の推進を支援しています



ユニリタ情報システム部の コロナ奮闘記



みなさんこんにちは。ユニリタ戊亥です。マガジンへのコラムは久しぶりとなります。
今回は情報システム部の責任者の立場から当社で発生した様々な事象をざっくばらんに
お伝えしたいと思います。

コロナ禍対策での在宅勤務はいかがでしょうか？

3密を避けながらの買い物や出勤は大変なことだと思います。私は緊急事態宣言が出る前に、時差出勤を試みました。当社ではスマイルワークという施策の一環で、2019年10月から選択時間労働を行っていましたので私も7:00出勤を試してみました。しかし、最後行き着くところは在宅勤務でした。

そのため、在宅勤務にむけ、社内環境を十分に準備していたつもりでしたが、その後の緊急事態宣言で状況は一変することになります。全社的な在宅勤務に向け、ハードウェアの確保、リモートでの勤怠管理や承認作業といったシステム対応、VPNやファイルサーバといったインフラ整備、またそれらを利用する上での規定や運用ルール作成など、やるべきことは山積みでした。

そんな中、本来ITを活用して在宅勤務を率先して実施すべき情報システム部門ですが、現在抱えているタスクの多くが当社しなければならない

と言います。緊急事態宣言の前にメンバーにヒアリングしたところ、「当社しなければならないタスク」が70%も存在していました。そこで、本当に「当社しなければならないタスク」なのかを継続的に計測するために、タスク管理ツールを入れてみることにしました。その結果は…

この原稿を書いている間にも、コロナ禍対策としてさまざまな課題が発生しています。そのため、誌面ではタイムリーな情報をお伝えすることが難しいため、ここからは当社で運営しているシステム管理者の会という団体のWebサイトに定期コラムとして連載していきます。

定期コラム

コロナ奮闘記 Vol.1はこちらから

<https://www.sysadmingroup.jp/col/p21011/>



システム
管理者の会

ニューノーマルを支えるシステム管理者とは システム管理者感謝の日イベント 緊急開催決定

7月最終金曜日「システム管理者感謝の日」をお祝いするイベントとして毎年開催しているシステム管理者感謝の日イベント。
今年はウェビナー形式での開催に挑戦します！

今年は残念ながら皆さんと一堂に会した交流はできませんが、全国の皆さんの勤務場所(会社?自宅?サテライトオフィス??)からのニューノーマルな参加方式で視聴いただければと思います。



システム管理者感謝の日とは？

システム管理者感謝の日は、システム管理者の労をねぎらう記念日として米国で2000年から実施され、毎年7月最終金曜日がこの日にあたります。日本では2007年に当社が記念日登録を行い、普及活動をしています。



「システム管理者感謝の日イベント」とは？

「システム管理者感謝の日」に先立つ記念行事として、ITサービスを支えているシステム管理者の方々に感謝すると共に、新たな取り組みを後押しする事例や情報を提供するイベントです。毎年7月に開催しており、今回で14回目を迎えます。

新たな技術や考え方を学べる講演や、各社よりエントリーいただいている「表彰や感謝の気持ちを伝える活動」の年間発表の場として「システム管理者アワード 年間表彰」を行います。全国でシステム部門メンバーの活躍を称賛する取り組みが普及することを目指しています。



現場重視 - システム管理者の生の声をお届け

今年は、現場で苦勞されているシステム管理者に生出演いただくパネルディスカッションを開催します。

「コロナ奮闘記」と題して、リモートワーク対応を中心とした現場の切実な状況、苦勞話、課題を各社のゲストスピーカーに思う存分語っていただきます。

また、恒例となります「システム管理者アワード2020」も同時開催。実務担当者が語る、システム運用の「今」が分かるイベントです。

無料視聴の参加者を先着1,000名で募集しています。
ぜひご参加ください。

「第14回システム管理者感謝の日イベント」

7/30(木) 15時～
イベント特設サイトから参加しよう

<https://www.sysadmingroup.jp/event2020/>



UNIRITA

株式会社 ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383
名古屋営業所 〒451-0045 名古屋西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(1B48KTビル) TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ユニ・トラント / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

© UNIRITA Inc. 2020.7 MG-2007-0-1